

令和2年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡中央高等学校

校訓 立志・気づき・共生

1 教育目標 (建学の精神)

- ① 自ら思考し、創造し、自学自律の態度を身につけた人間を育成する
- ② 広い視野と洞察力を持ち、豊かな人間性と果敢な実行力を備えた人間を育成する
- ③ 自他を敬愛する精神を培い、地域や社会に奉仕し、貢献できる人間を育成する

2 本年度の重点目標

生徒が良質なモチベーションを持ち、成果が上がるように支援し、褒めて育てる、コミュニケーション豊かな教師集団と学校が大好きな生徒のいる学校をつくる。

- ① 新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造する
- ② 生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境をつくる
- ③ 一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる
- ④ 日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる
- ⑤ 周りからみえる学校、地域に信頼される学校づくりに努める
- ⑥ 学習環境の整備と健康・安全教育の推進に努める
- ⑦ 新学習指導要領に基づく教育課程の編成を進めるとともに、学習指導法の研修に努める

評価基準	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
		今年度の成果と課題	評価	来年度への改善点	意見・要望
新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造する	① 本校教育活動の強みを発信し、弱点克服に努める	本校の教育計画に基づき、年度の重点目標、各課・年次等の経営計画が策定され実行されている。	B	引き続き、教育計画書の内容を周知し、将来に向けた本校の教育活動とマネジメントサイクルの検討を進めていく。	・地域に根づいた、ひらかれた高校として実績を積み、未来展望に立つての高校を創造している。シルクプロジェクトも単にデザインを生かす制作を超えて福祉や観光と連携するなど新しい活動に進展させている。 ・「具体的方策」をより具体的に、マネジメントサイクルについても誰が何をどのように評価・改善するのか明文化するのが望ましい。 ・新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造するにあたり、地域の中学生や鶴岡市、あるいは企業などから期待される学校像とは具体的にどういふものなのか今後とも研究する余地がある。
	② 地域の中学生や保護者、鶴岡市や関係団体、企業等から期待される学校について研究する。		B		・大学進学がすべてではないが、普通科での特色ある学びを通して自己の将来を見据えた学びを展開することで、卒業後の進路選択につながるのではないかと、それに伴い自ずと進学率も向上するものとする。 ・生徒・保護者・教員から意見をききながら、より良い学校づくりに取り組んでいる。来年度以降もさらにレベルアップした中央高校を期待する。
生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境をつくる	① 普通科においては、将来の学びも視野に入れ、切磋琢磨し確かな学力をもとに進路実現できるよう、一層学力を向上させる。	各教科において、生徒の活動を重視した授業展開を「新しい生活様式」を踏まえて、可能な範囲で工夫している。	C	授業改善に関するアンケートを実施し、具体的な取り組みについて共有する。	・出席率の高さが何よりも生徒自身の学が喜びを伝えている。教育環境も冷暖房など、どこを優先すべきかを考えた整備が進行し、また生徒を前面に出して活動を推進するなど配慮されている。 ・進学、就職に関わらず、ICTの進展によりデジタルツールを活用した「教育」、「働き方」へシフトしている。ユーザーとなる生徒から意見を募りより良い環境づくりに期待する。
	② 総合学科においては、地域との触れあいを大切に、課題研究を核として、社会で活躍するための学力と高いスキルを身につけさせる。	生徒満足度調査の結果、学習分野の評価が相対的に低くなっている。家庭学習時間が減少傾向にあり、課題となっているが、外部教材等を活用し、改善を図っている。	B	今後教務課を中心として、各年次・各教科と課題意識の共有化を図り、学習習慣の定着と学力向上に努めていく。	・家庭学習時間については、「時間」を増やすのではなく、学習の質に注目して改善していただきたい。 ・生徒の満足度調査の結果、学習分野の評価が相対的に低くなっているのが気になった。家庭学習の時間が減少傾向にあるが、いかにして生徒のモチベーションを高め、学習習慣を身につけさせるかが大きな課題である。
	③ 研究機関との連携や、地域の自然・伝統文化・歴史遺産等を活用することにより、学習機会を拡大させ、本校教育を充実・発展させる。	普通科、総合学科(各系列)ともに、地域とのつながり、地域の教育力を活用した特色ある取り組みを実施している。	B		・地域との連携した教育環境は新聞・テレビ等でも発信されており、実体験を通した学びのステージとなっており、今後の継続と更なる拡充を期待したい。 ・普通科においても総合学科のように発表会があると、生徒の更なる成長につながるのではないかと、人前で話す経験は社会人としても大切な能力である。
	④ 普通科・総合学科それぞれの、特色ある学びを進展させる教育課程の編成と実施に努める。		B		
一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる	① 普通科の「キャリア探究」、総合学科の「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」を基軸とした「やる気」の誘発とキャリア形成を進め、進路希望の実現を図る。	各年次のキャリア教育の取組みは計画どおり実施することができた。進路指導に対する生徒の評価は高い。	B	各年次のキャリア教育を「主体的対話的で深い学び」につながるように探究的学びへと改善を加えていく。	・進路の具体的な目標などを考えないで入学してくる生徒も多い。情報を的確に活用させ、体験による目標の明確化と自己目標を達成させる手立てを自己プログラミングする力を高めさせたい。 ・成功や失敗の経験が一人ひとりの成長に繋がる。失敗を恐れず、様々なことを体験できる環境をつくり、引き続き生徒のキャリア形成に向けて尽力していただきたい。
	② 家庭学習の習慣化など、有効な時間の使い方を身につけさせ、将来を見据えた規律ある生活を確立させる。	普通科1年次の地元企業見学は実施できなかったが、地元企業との懇談会を実施した。また、普通科2年次も例年通り地元企業との懇談会を行った。	C	普通科・総合学科ともに地域との連携を意識した探究的な学習を継続する。	・進学、就職とそれぞれの希望や進路に合ったキャリア教育を望みます。今後は益々多様性が重視されてくるので対応してください。 ・キャリア教育の取組みが計画通りに実施できていることは高く評価できる。地元との懇談会は今後でもできる限り実施することが望ましい。 ・市内企業等と連携した探究学習は、親と先生以外の大人と接する貴重な機会であり、生徒にとってもこうした機会があることは重要と考える。また、探究学習における研究テーマの設定、研究方法、論理的な考察、他人に分かってもらうための発表方法など、生徒にとって得るものが多くある。工夫を重ね、市内企業からの協力を得ながら継続していただきたい。
	③ 複数教員による相談活動等のサポート体制を確立し、学びを広め深めるための情報活用能力を育てる。	総合学科2年次のインターンシップもコロナ禍のため中止した。	B		・コロナ禍で計画通りの学習が進められない面もありながら、SNSやネット等を活用して新たな場の設定に工夫されている。 ・PTA事業の一つとして、保護者が生徒に向けて自分の仕事の内容や思い入れなどを話す機会があれば、親子両方に良い影響があるのではないかと。
日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる	① 相手の立場や周りの状況を的確に判断する力を養い、正しいネット社会のあり方を理解させる。	生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っている。課題を抱える生徒に対しては、担任を中心に、年次や各分掌、MH委員会等が連携し、組織的に対応する体制が整っている。	B	生徒会をはじめとして、学校全体であいさつでの励行を進める。	・コミュニケーション力はやはり不足している。伝えたい意欲があれば伝える力は伸長する。仲間同志の対話も大切である。短歌でもつくらせ、自己の思いが他者に伝わる熟度を客観的に検証させるのもよい。 ・「C」評価のコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルは将来最も必要な力の一つですが、効果的な指導をして下さい。
	② 日々の挨拶や対面したコミュニケーションを大切にするとともに、プレゼンテーションを意識した授業等を実施し、他者に伝える力を身につけさせる。	日々の挨拶を大切にしている生徒、積極的に挨拶する生徒が年々少なくなってきた。新型コロナウイルス感染症予防対策等により学校行事の実施は難しかったが、実施可能な方法を検討し、予防対策を行いながら実施した。	C	ボランティア活動について、これまで以上に情報を提供し、活動を広げるよう意識的に勧めていく。	・コロナ禍で学校行事にも多大な影響が出ているのが現実であるが、それでも生徒がおおむね落ち着いた学校生活を送っているのは何よりである。日々の挨拶の励行やプレゼンテーションを意識した授業は今後とも継続的に実施することが望まれる。 ・SNSの利用や校則等々、生徒会活動での生徒目線でのルールづくり等を通して、生徒自身がどうあるべきかを考え、判断する力を身につけさせていきたいものである。
	③ 生徒の悩み・変化を見逃さない観察・声掛けと積極的な面談活動を実施する。	部活動では、運動部の地区大会及び6月の県高校総体は中止となった。新人大会等は団体戦及び個人での活躍を見せている。文化団においても、感染予防対策を講じながら定期演奏会等を実施した。	B	部活動や各種行事等もそれぞれのガイドラインを遵守しながら活動を進めていく。	・担任と生徒の個別面談を年に何回か実施することが双方の理解を深めるために効果がある。さらにその結果を学年団等で共有することも重要である。
	④ 生徒会・各種委員会・部活動・ボランティア等の課外活動において、生徒の創意や自主性を育みながら、人格の錬磨に努めさせる。		B		
	⑤ 外部機関と連携して各種相談活動を充実させる。MH委員会の機能を強化し、生徒・保護者へのきめ細かなサポートを実施する。		B		
周りからみえる学校、地域に信頼される学校づくりに努める	① ホームページ・掲示板・各種たより等による保護者や地域への広報活動を充実させるとともに、地域との交流を活発にする。	学校ホームページや本校生徒について掲載された新聞記事等での情報発信に努めた。コロナ禍によりPTA活動も例年通りの活動は難しいが、11月にPTA研修育成部によるPTA研修会(講師:安田津津紀氏)をZOOMで実施した。	B	引き続き学校ホームページや掲示板を活用し、時宜を得た適切な情報発信に努めるとともに、マ・メール(メールによる学校連絡網)を活用して家庭への情報提供を行う。	・長年の努力が成果を挙げ、地域の信頼と期待を最も大きく受けている学校となっている。地域に育てられ、校内外に学習の慈場をもつ学校となっている。 ・多くのことがオンライン化していきますので、オンラインを活用した情報発信を検討してみてください。
	② 学校公開と情報発信、地域の期待に応える学校づくりに努める。	各年次を中心にマ・メール(メールによる学校連絡網)の利用回数を増やし、家庭への情報提供を行った。	B		・各家庭への情報提供は「みえる学校」づくりを行っていく上でも大事である。 ・学習の取組み、成果がマスコミ報道等で取り上げられる機会が多く、活気ある学校とのイメージがある。 ・授業参観を年に数回実施する。部活動の参観も行う。マ・メールは修学旅行中の生徒の動向も伝える、「時代は中央」に対し、年次部長や学級委員長など多くの保護者の思いを寄せってもらうなど一つの方法である。
学習環境の整備と健康・安全教育の推進に努める	① 新型コロナウイルス感染症予防対策をはじめとし、生徒の健康安全管理能力の育成と教育相談体制の充実を努める。	各分掌において、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施している。	B	新型コロナウイルス感染症予防対策の継続と、各分掌における危機管理体制及び危機管理マニュアルの整備を進める。	・「危機管理マニュアルの整備を進める」という改善点は、迅速に取り組んでほしい。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策の継続と危機管理マニュアルの整備はこれからは必要と考える。そのためには各年次、分掌の連携はこれまでに以上が必要不可欠である。 ・コロナ禍の状況もあるので、保護者も巻き込んで一緒に研鑽を深めてはどうか。保護者にも、学校にあるAEDの操作研修会の開催を検討して欲しい。
	② 危機管理体制の整備と施設設備の安全点検の推進を図る。	生徒の安全管理能力の育成については、時折マスクをしていない生徒もみられ、さらに周知、徹底が必要と考えられる。	C		
新学習指導要領に基づく教育課程の編成を進めるとともに、学習指導法の研修に努める	① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブ・ラーニングや探究的学習についての研修と実践に努める。	教育課程検討委員会を中心に、令和4年度入学生から実施の新学習指導要領に基づく教育課程を検討した。今後さらに探究的な学びの研鑽を深めるとともに、ICTを活用した学習方法についての研修を実施していく。	B	オンラインで提供されているサービスや電子黒板等のICT機器を活用した学習方法の研修をさらに深め、個別最適化された学びの実践につなげる。	・時代の変革期を迎え、教育の内容や機器利用など習熟と効用化による実践など課題は多い。ストレスを溜めこまず、じっくりじっくり進める姿勢を生徒たちにも輝いて生きる力として見せてほしい。 ・「探究的な学び」とは何か、具現化し効果的な学習となるよう進めて下さい。 ・オンラインで提供されているサービスや電子黒板等のICT機器を利用した学習の機会は今後益々増えると思われるので、学習方法の研修をこれまでに以上に行い、実践につなげてほしい。 ・タブレット端末等のツールを活用した学びのあり方について、学校現場すべての校種で研究をする時代です。先進的な取組みとその発信を期待したい。 ・現在はコロナの影響で、ICT化への対応が急務であるが、将来的には学校統合に伴う教育課程の変化にも対応しなければならないと思われる。